（R8. 11. 5 ）

医療福祉の地域創造会議　通信　第 151 号

第 143 回ワーキンググループ会議（R8.10.22）

「人にも動物にも優しい地域づくり」

●話題提供者
滋賀県動物愛護推進員　田中　ヒロヤ　さん

10 月は、滋賀県動物愛護推進員の田中ヒロヤさんに話題提供をしていただきました。

高齢者が犬を飼育することで、認知症発症リスクが抑制され、医療・介護費用を削減できる可能性がある。一方で、入院などで面倒を見られなくなった時の問題もある。

田中さんが参加されている**「こうが人福祉・動物福祉協働会議」**は、飼育崩壊が起こる前に予防できないか、というところから会議が始まり、目標は「人にも動物にも優しい地域の実現」と話されていました。

なぜ飼育崩壊が起こるのか

コミュニケーションが苦手などで生きづらさを抱えている人や、独居の高齢者は、動物とコミュニケーションを求めて依存していきやすい。そういう人がトイレや去勢のことなど基本知識がわからずに動物を飼うと、続け増えていき家中が汚染される。ケアの方が家に踏み込めない状況になる。

ポイント

飼育崩壊は動物の問題ではなく、人の問題。
飼い犬、飼い猫を最期まで面倒をみていれば問題は起こりにくい。

人口減少・高齢化

人口減少により勤労世代の減少。
公的支援を求めることは難しい。

就職氷河期世代は、受け取る年金も少ない世代。
10 年後その世代の高齢者が一気に増える。その方々が動物を飼い続けると生活破綻につながる。

公助でできることは限られている
早期に手を差し伸べられる地域・社会づくり
自助・共助で生活をやっていける地域づくり



田中　ヒロヤさん

犬や猫を拾ってきたら、拾った人が譲渡先を探す。ボランティアは全てを預かることはできない。

自分の得意なことをちょっとだけ人のために手を差し伸べ、お互いに助けあって共助の世の中を作っていくことが大事なのでは。その積み重ねが地域づくりにつながっていく。

長く続けるために自己犠牲をしない。継続することが大事。

目指すは、人も動物も幸せになれること。

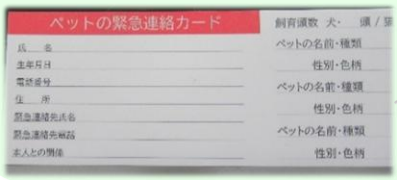
「甲賀市のエンディングノート」

ペットの欄がある。

1 人で書くと辛いものがある人も、飼っている犬や猫のためにどうしたいか…から始めて、あとを埋めていくきっかけづくりになるのでは。

「ペットの緊急連絡先カード」

自分に何かあった時に頼れる人を記載し、普段からコミュニケーションをとって家を行き来したり、お互いの動物にも慣れると、人の見守りにもなる。地域の中でお互いが生活しやすい環境になる。





参加者の声

- 飼いたくても飼えない人は、週１回でも面倒をみるとか洗ってあげるとか、できる範囲でできればいいのでは。AI のロボットやスマホ画面で動物を映すなど。
- 自分たちの仕事はペットを飼っている人も支援。その人たちが大事な家族と長く生活を続けられるための大切な仕事だな、という自分の仕事の良さを改めて感じた。
- 無理しないことが大事。
- こうが人福祉・動物福祉協働会議は、事務局無しでなぜできるんだろう。➡自由に参加、自由に発言でどこが責任を持つということをせず、ゆるくやっている。
- ペットをきっかけにしたエンディングノート作りを進めたい。
- 日々目の前にある問題点を処理していくことに注力してしまうが、問題が発生する前にどうしていくかを考えて、そういう集まりが無理なく継続していることが素晴らしい。
- 人も動物も幸せになってほしい、という福祉を考える機会は本当に貴重な機会だった。
- 自己犠牲のないところが、継続するうえで大事なことかな。
- 保護猫譲渡会を毎月やっていて、毎月同じところですることに意味がある。特養やグループホームで動物との親和性があるため、協力できるといいな。

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和８年 12 月 16 日（水）13:00～14:00
○永源寺地区ボランティアセンターこだまとの交流
「押し花カレンダー作り」
○場所：永源寺コミュニティセンター（現地のみ）

医療福祉の地域創造会議　事務局
（滋賀県庁　医療福祉推進課内）
Tel　077-528-3529
e-mail　info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp